



お母さん、ありがとう

平成 27 年
(2015 年)
5/1



No. 336

地域ニュース

編集・発行 鷺宮区民活動センター運営委員会

〒165-0032 中野区鷺宮3丁目22番5号 電話:3330-4127 FAX:3330-4131

[題字は長谷川昂氏]

E-mail:nakano_saginomiya@nifty.com

http://www.nakano-saginomiya.gr.jp/

第4回 東日本大震災 3.11 のつどい

東日本大震災から4年が過ぎましたが、復興状況は必ずしも順調とは言えません。また、記憶が風化し遠い過去の出来事のように思われていくことも懸念されます。鷺宮地区 3.11 のつどい有志の会は、毎年3月11日に「3.11 のつどい」を行い、被害に遭った方々に思いを寄せるとともに、震災から得られた教訓を今後に生かしていこうとしています。

鷺宮は第二のふるさと 3.11 のつどい

日本中を震撼させた東日本大震災から4年経った3月11日、野方区民ホールで鷺宮地区 3.11 のつどい有志の会主催、中福の会協力のもと「3.11 のつどい」が行われました。

第1部の講演では「子供がつかないでくれた命」という演題で、宮城県気仙沼市から鷺宮都営住宅に避難している芳賀唯未さんが津波で実母を亡くされたお話をされました。「あの時こうしておけば良かったという思いもあるが、自分も3人の子供を授かり当時の母の愛情を深く感じている。母と同じように我が子がんばって育てたい。鷺宮を第二のふるさとだと思っている」というお話に会場の誰もが涙ぐんでしまいました。

「震災から4年過ぎた今」と題した意見交換会では、福島第一原発の帰宅困難区域から避難されている方々が「一時帰宅の際には防護服を着用しなくてはならない。庭は動物に荒らされている。家は何とないが放射線量は高く暮らすことは不可能」と、帰りたくても帰れない現状を語られました。鷺宮に暮らし始めた当初は住民と多少の隔たりがあったけれど、現在では集会室で行われているコミュニティサロン「来(こ)らっせしらさぎ」などで、避難している方々や地域の方々と知り合いになれたそうです。第1部終了後震災が起きた午後2時46分には全員で黙祷しました。

第2部のクラシックコンサートでは、モーツァルト作曲の3曲を堪能し最後に全員で「ふるさと」「花は咲く」などを合唱しました。手作りの心温まる催しでした。



中福の会の活動

「中福の会」は、東日本大震災のために避難している方々と中野区在住・在勤の有志が親睦を深め、ともに活動していくことを目的としている団体です。鷺宮地区まつりの設営等に対する協力、模擬店参加、青少年育成鷺宮地区委員会のいもほりハイキング協力など、多くの地域活動に積極的に参加しています。

避難している皆さんは、平成23年の地区まつりから協力員や実行委員として参加し、力を発揮されています。今では作品展準備の大工仕事には欠かせない存在となっています。昨年の地区まつり



では「東日本大震災コーナー」を設け、被害のようすや現在の復興状況などの写真・資料の展示を行い、来場者の関心を集めていました。また、気仙沼から取り寄せたサンマを焼いて模擬店に参加し「炭で焼いたサンマはおいしい」と大好評でした。今年の1月には味噌作りに挑戦し、できた味噌を使った食品で今年の地区まつりの模擬店に参加したいと意気込んでいます。中福の会の代表で、福島県双葉町から避難している谷尚之さんに、お話をうかがいました。

「中福の会ができて3年半になります。地区まつりの設営や本部に協力した時に顔見知りになれた方々と、互いに親睦を図りたいということで始めました。「中福」とは中野と福島の中福と中程度の幸福という二つの意味です。まだ避難している方の参加が少ないのが残念ですが、これからもお誘いがあればどんどん地域に出ていきます。故郷に戻れないのは辛いことですが、今では鷺宮に来て皆さんと知り合いになれたことに感謝しています」

東京都によると、東日本大震災による都内への避難者数は今年2月12日現在、7509人。平成24年4月のピークより約2000人減ったが、被災地帰還は本格化していない。鷺宮都営住宅の避難者は81戸192人。



積み重ねが今の姿を作っていったんだなあ、地域を支える皆さんのパワーに感謝いたします。

本校はあと2年で、統合新校となり生まれ変わりますが、地域の中の小学校には変わりありません。これからも若宮の子供たちをどうぞよろしく願います。それとともに、地区委員会40年という伝統の中で一つ一つの

地域の中の若宮小学校

若宮小学校校長
堀 聡明

